

# 学位論文要旨 (修士 (理学))

論文著者名 富田璃希

論文題名 : ある  $\mathbb{Z}/3\mathbb{Z}$  不変体の変形

本文

$k$  を体,  $k[\mathbf{x}] = k[x_1, \dots, x_n]$  を  $k$  上の  $n$  変数多項式環,  $k(\mathbf{x}) = k(x_1, \dots, x_n)$  を  $k$  上の  $n$  変数有理関数体とする.  $L$  を  $k(\mathbf{x})$  の部分体で,  $k$  を含むものとする. 次の問題はヒルベルトの第 14 問題と呼ばれている.

問題 1  $k$  代数  $L \cap k[\mathbf{x}]$  は有限生成か?

$L$  の  $k$  上の超越次数が 2 以下のとき,  $L \cap k[\mathbf{x}]$  は有限生成であることをザリスキ [5] は示した. 一方, 問題 1 の反例は永田 [3] が 1958 年に初めて与えた. ロバーツ [4] は問題 1 の新しい反例を与えた. これらの反例  $L$  に対し,  $k(\mathbf{x})/L$  は超越拡大である.  $k(\mathbf{x})/L$  が代数拡大の場合については, ロバーツの理論を一般化し, 全ての  $r \geq 3$  に対し,  $[k(\mathbf{x}) : L] = r$  を満たす反例  $L$  が構成された [2].

最近, 次の結果によって,  $[k(\mathbf{x}) : L] = 2$  を満たす反例も与えられた [1]. 以下,  $k$  の標数は 0 とする.  $z$  を変数とし,

$$k[\mathbf{x}, z] = k[x_1, \dots, x_n, z], \quad k(\mathbf{x}, z) = k(x_1, \dots, x_n, z)$$

をそれぞれ  $n + 1$  変数の多項式環, 有理関数体とする.

$$\epsilon : k[\mathbf{x}] \ni p(x_1, \dots, x_n) \mapsto p(x_1, 0, \dots, 0) \in k[x_1]$$

と定義する.  $\text{Aut}_k k(\mathbf{x}, z)$  を体  $k(\mathbf{x}, z)$  の  $k$  上の自己同型群とする.

$M$  を  $k(\mathbf{x})$  の部分体で,  $k$  を含むものとし, 以下の条件 (A) と (B) を考える.

(A)  $M \cap k[\mathbf{x}] = M \cap k[\mathbf{x}][x_1^{-1}]$  である.

(B)  $\epsilon(M \cap k[\mathbf{x}]) = k[p]$  を満たす  $p \in k[x_1]$  は存在しない.

このとき, 次の定理が成り立つ.

定理 2 ([1, §2.2.1])  $M$  が (A) と (B) を満たすとき,  $k$  代数  $\theta(M(z)) \cap k[\mathbf{x}, z]$  が有限生成でないような  $\theta \in \text{Aut}_k k(\mathbf{x}, z)$  が存在する.

なお, [1, §2.2.1] では定理 2 の  $\theta$  の構成の手順も与えられている.

本修士論文では, 有限行列群の不変体として (A), (B) を満たす  $M$  を作ることを試み,

以下の結果を得た.  $n = 2$  とし,  $x := x_1, y := x_2$  とおく. 位数 3 の行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix} \in GL(2, k)$$

に対し,  $k[x, y]$  の自己同型

$$\phi : k[x, y] \ni p(x, y) \mapsto p\left(A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}\right) = p(-y, x - y) \in k[x, y]$$

の  $k(x, y)$  への拡張を  $\tilde{\phi}$  とおく. このとき,  $\tilde{G} := \langle \tilde{\phi} \rangle$  は  $\text{Aut}_k k(x, y)$  の位数 3 の部分群である.  $\tilde{G}$  の不変体  $k(x, y)^{\tilde{G}}$  を考える.

次が本修士論文の主結果である.

定理 3  $M = k(x, y)^{\tilde{G}}$  は条件 (A) と (B) を満たす.

本修士論文では,  $k$  代数  $\theta(k(x, y)^{\tilde{G}}(z)) \cap k[x, y, z]$  が有限生成でないような  $\theta \in \text{Aut}_k k(x, y, z)$  も構成した.

## 参考文献

- [1] A. van den Essen, S. Kuroda and A. J. Crachiola, *Polynomial automorphisms and the Jacobian conjecture—new results from the beginning of the 21st century*, Frontiers in Mathematics, Birkhäuser/Springer, Cham, 2021.
- [2] S. Kuroda, Hilbert’s fourteenth problem and algebraic extensions, *J. Algebra* **309** (2007), no. 1, 282–291.
- [3] M. Nagata, On the fourteenth problem of Hilbert, in *Proceedings of the International Congress of Mathematicians, 1958*, Cambridge Univ. Press, London, New York, 1960, 459–462.
- [4] P. Roberts, An infinitely generated symbolic blow-up in a power series ring and a new counterexample to Hilbert’s fourteenth problem, *J. Algebra* **132** (1990), no. 2, 461–473.
- [5] O. Zariski, Interprétations algébrico-géométriques du quatorzième problème de Hilbert, *Bull. Sci. Math. (2)* **78** (1954), 155–168.